

令和6年度
石川未来プロジェクト事業
成果報告書

はじめに

「石川未来プロジェクト」事業は、公益社団法人大学コンソーシアム石川の地域連携事業の一環として、令和3年度より開始された事業です。このプロジェクトは、大学コンソーシアム石川の特徴を生かして、石川県内の高等専門学校、短期大学、大学、大学院を跨ぎ、専門性を超えた、全国でも珍しい横断型プロジェクトです。

また、3年に1回変わる大テーマ（これを「未来テーマ」と呼んでいます。）に対する具体的な課題を発見し、その課題に対する解決策を立案し、さらに、その社会実装を目指すまさに問題解決型プロジェクトでもあります。

今回の未来テーマは、「石川でよかった！-幸せの街、石川-」です。石川県が抱えている課題は何でしょうか？課題解決の先の未来に「幸せの街、石川」があります。課題のキーワードには、能登復興、学都石川、文化継承、祭り、交通、食、GX、DX・・・等があげられます。

石川県の輝かしい未来を創るのは、現在高等教育機関に所属している学生たちを含む若者です。そして、このプロジェクトに地域課題の解決に高い関心と意欲を持つ9名の有志が参加してくれました。

この報告書は、この学生たちが約1年をかけて取り組んだ成果をまとめたものです。プロジェクト活動に不慣れな学生たちが、自分の考えを述べるだけでなく、先生方からの追加的意見と建設的批判を交え、ブレインストーミングなどの手法を準用しながらまとめ上げたこの報告書を、是非、ご高覧賜れば幸いです。

最後にこのプロジェクト活動を支え、良い方向に導いてくださった先生方に、心より感謝申し上げます。

公益社団法人
大学コンソーシアム石川
地域連携専門部会
部会長 新 広昭

目 次

チーム：スマイル工房

空家×民泊×就活支援	2
------------------	---

指導教員（代表） 金沢星稜大学 経済学部 教授 新 広昭

チーム：Sorasora

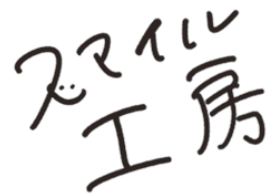
若者が地域のつながりを活用して石川県民を笑顔に！	16
--------------------------------	----

指導教員（代表）

北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田 麻実

空家×民泊×就活支援

指導教員（代表） 金沢星稜大学 経済学部 教授 新 広昭
参加学生 ・金沢大学 数物科学類 2 年 北山 大智
・北陸大学 経済経営学部経済学科 1 年 中村 理紗
・石川工業高等専門学校 建築学科 4 年 本山 愛沙
・石川工業高等専門学校 建築学科 4 年 山内 花凛



1. 活動の成果要約

本チームは、未来テーマである「石川でよかった！-幸せの街、石川-」を達成するために、人口の転出超過や空き家の増加、伝統文化の継承と発展などに着目し、「空き家×民泊×就活支援」というテーマを掲げて取り組んだ。最終的に提案したアイデアは、金沢市をモデルケースとして町屋を就活支援や地域の発信拠点として利用するというものだ。具体的に石川県の空き家、特に金澤町屋を改修し、北陸3県の就職活動中の学生を支援する施設の設立を行う。金澤町屋をリノベーションし利用することは、減少しつつある金沢の街並みを守るという役割を担うことになる。空き家と就職支援をつなげることで、学生は石川県での就職活動を円滑に進めることができ、企業はカジュアルな雰囲気の説明会や座談会を開催できる。町屋を利用することで、地域の人々は愛着と誇りを持つようになり、様々なコミュニティの形成が図れることで地域のシンボルとなることを目指す。

2. 活動の目的

現在、石川県は「人口の転出超過」、「働き手不足による産業活力の低下」、「優れた文化の継承と発展」、「空き家の増加」という課題を抱えている。今後もこれらの課題が続けば、地域特有の文化やコミュニティが衰退し地域の活気が失われてしまうと予測できる。そこで、持続可能な地域にするために、若者の地元定住や地域の活性化を促すことが必要だと考えた。県内への定住を促すために就活支援や地元の企業を知る機会の提供を行う。さらに、金沢独自の伝統文化や建物を身近に触れられる機会として、空き家を、地域に開放する施設へと転用を行う。これらの対策を行い、石川県での就職や地元定着を促進する施設の設立し、また、金沢市をモデルケースと捉え、「金沢モデル」を全県に波及させることを目的とする。この活動を通してメンバーが石川県の課題に向き合い、必要な対策や地域への貢献の仕方を考え、アイデアを出し合い、調査する力を養うためでもある。

3. 活動の内容

○活動の概要

Teams を使ったオンラインミーティングや対面でのミーティングを週に1, 2回程度行った。作成データの保存や管理は Teams を利用した。

○活動スケジュール

月	議題
5	キックオフ講義、オリエンテーション顔合わせ、自己紹介
6	チームビルディング 具体的活動テーマ決定
7	中間報告会準備 27(土) 中間報告会
8.9	夏休み
10	今後のスケジュール設定 空き家、就職についての情報収集 アンケート制作
11	アンケート制作 18(月)-27(水) アンケート実施 【対象：石川県内大学生 内容：空き家、就職、居場所について】 アンケート集計
12	ヒアリング準備 27(金)ヒアリング実施 【旅音(株式会社こみんぐる)、金澤町家情報館、株式会社ガクトラボ】 成果報告会準備
1	成果報告会準備 18(土) 成果報告会
2	石川未来会議準備 15(土) 石川未来会議

【7/27(土) 中間報告会】



【1/18(土) 成果報告会】



(1) アンケート

1. 目的 空き家を改修し、就活支援の場に活用する提案に対する学生の意識を知る
2. 参加者 北山大智、本山愛紗、山内花凜、中村理紗
3. 内容

対象 石川県内の学生 (206 件)

期間 11/18～11/27

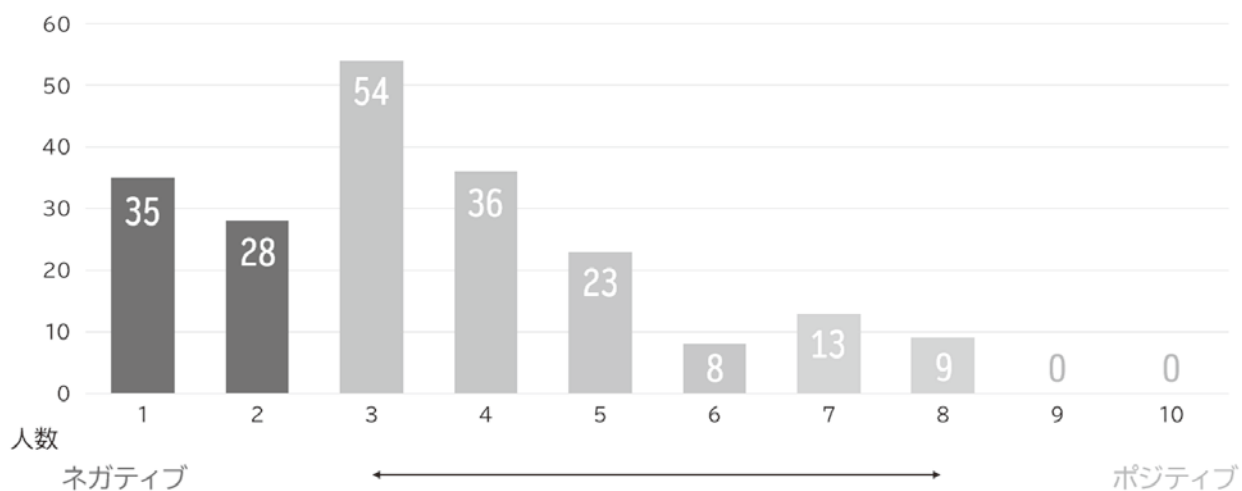
媒体 Google Form

私たちは、空き家を改修し就活支援の場として活用する内容の提案を行っているが、実際に利用すると想定される世代である大学生に対し、空き家への印象や就活支援についての質問を行った。

実施したアンケートの質問とその結果を以下に示す。

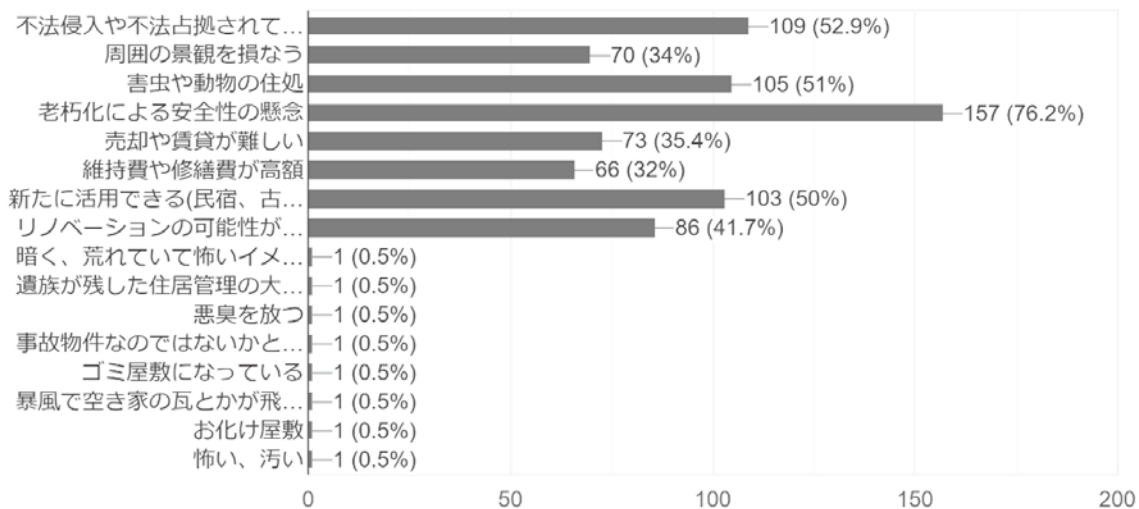
空き家

空き家への印象がポジティブなものか又はネガティブなものかどうかを教えてください。



空き家からイメージするものとしてどのようなものがありますか(複数選択可)

206 件の回答



空き家の利活用としてどのようなものが考えられますか。

【食事】古民家カフェ、レストラン、居酒屋、勉強カフェ

【宿泊】民泊、コテージ

【作業】学習、コワーキングスペース、会議室

【支援】子ども食堂、子どもの支援施設、居場所、介護

【住居】住宅、シェアハウス、寮

【交流】地域交流、居場所、子ども達の居場所、観光施設、休憩所

【エンタメ】遊び場、公園、お化け屋敷、秘密基地、雑貨屋、アートギャラリー

【レンタル】レンタルスペース、大学生の起業の場

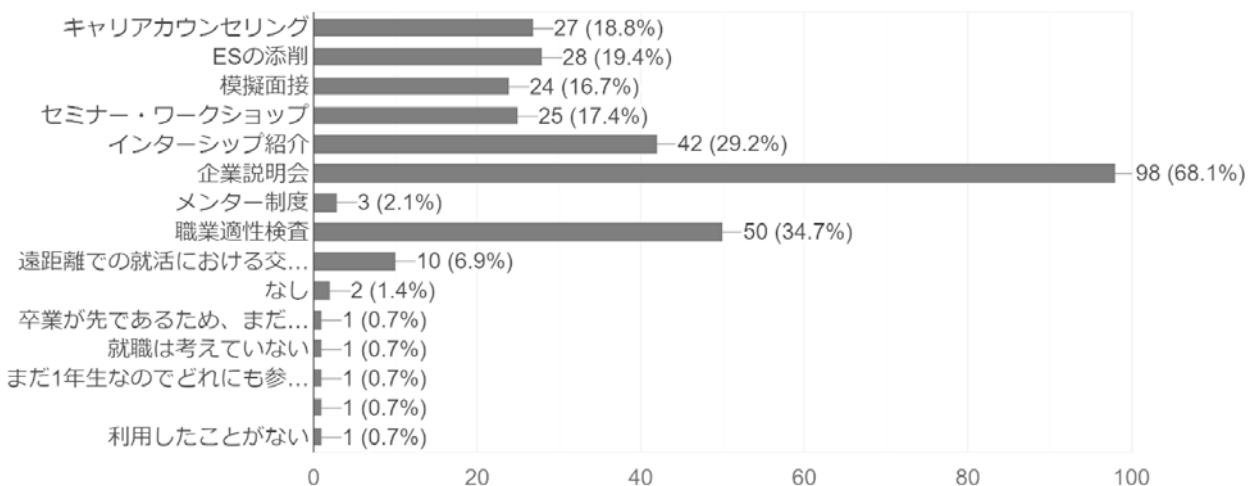
【防災】避難場所、防災倉庫、復興作業の居住地

【その他】解体する、倉庫

就活支援

利用したことがある就職支援について回答してください

144 件の回答



その就活支援を使って満足した点、不満だった点はなんですか。

<満足した点>

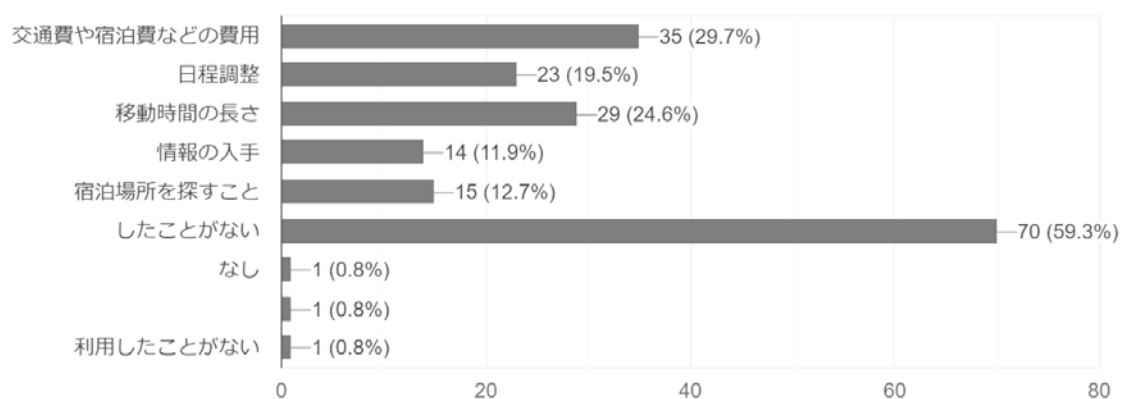
- ・自分の職業適性を知ることができ、キャリアビジョンが明確になった
- ・会社の雰囲気を感じやすく、企業からの視点を知れた
- ・個別のカウンセリングが受けられ、自分の悩みの解決につながった
- ・企業の方が、学生の就活に対して協力的な体勢で関わってくれた
- ・学校ではできない体験ができた

<不満だった点>

- ・企業のいいところしか見えない
- ・企業の細かい仕事内容を聞きたかった
- ・遠方への就活の際の宿泊費用の支援不足や情報不足
- ・怪しい就活エージェントがいた場合、自分で見極める必要がある

現在住んでいる都道府県外から就職活動をしたこと...職活動で苦労してことは何ですか。(複数選択可)

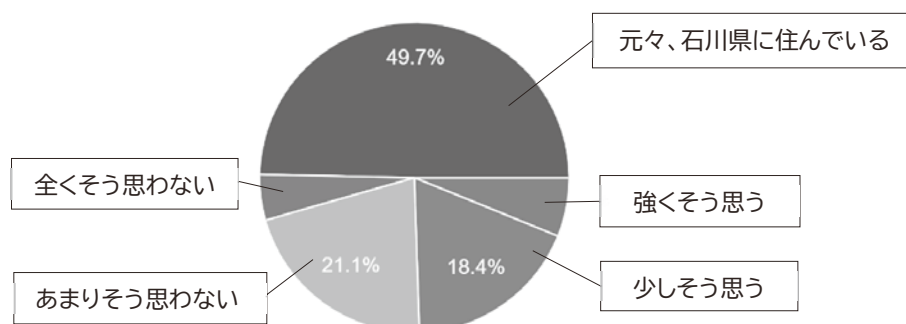
118 件の回答



居場所

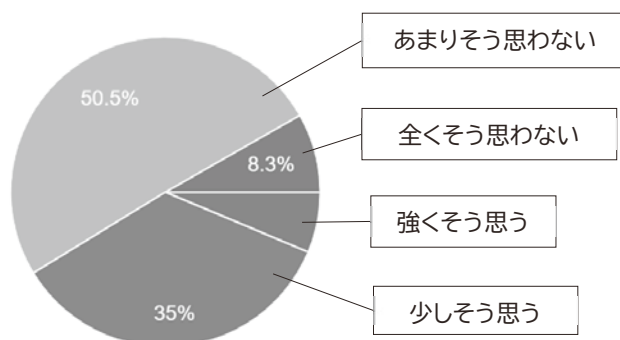
石川県へ転入した人へお聞きます。石川県で就職して住み続けたいと思いますか。

147 件の回答



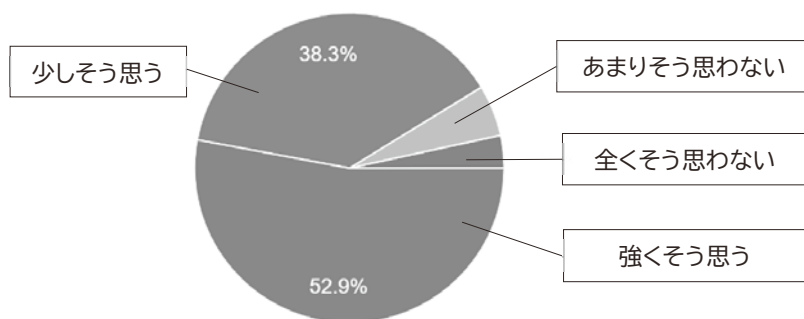
地域での交流の場は足りていると思いますか。

206 件の回答



自分の居場所が家や職場、学校以外にあったらいいと思いますか。（例 カフェ、図書館等）

206 件の回答



4. 成果

アンケートの結果から、空き家には、安全への懸念や不法侵入による治安の悪化などのネガティブなイメージがある一方で、新たに活用できる可能性を持っているなど、ポジティブなイメージもあるということが分かった。また、空き家の利活用として、古民家カフェや民泊、ワークプレイス、地域交流の場などが望まれていることが分かった。つまり、空き家を改修して魅力的な場を創出し、新たなコミュニティを形成することは求められていると考えられる。

また、就活支援の質問では、都会での就職時の情報不足や、机上の良いところしか見えないうなどが支援を使用して不満だった点として挙げられる。また、遠距離での就活では、交通費や宿泊費など費用の捻出、宿泊場所を探すこと、情報の入手などに苦労したという結果が得られた。そのため、企業についてよく知る機会や、遠方で就職する際に宿泊の支援が求められていると考えられる。

居場所についての質問からは、地域の交流の場所は、85%の人が足りていないと感じていることが分かる。また、自分の居場所を家や学校、職場以外に求めている人は 90%を超えている。つまり、地域での第三の居場所は求められていると考えられる。

(1) ヒアリング(旅音(株式会社こみんぐる)、金澤町家情報館、株式会社ガクトラボ)
〈旅音(株式会社こみんぐる)〉



<<https://cf.bstatic.com/xdata/images/hotel/max1024x768/214172320.jpg?k=581729d75064e45a767d9d6fd2daa0e677b7e21c64ffdd93cf93c21b5a408ced&o=>>

<<https://cf.bstatic.com/xdata/images/hotel/max1024x768/537992023.jpg?k=2e1ba2d827ab361a197836ae6d5c9a96e291d72b6486b2631380d1b3ae722e8e&o=&hp=1>>

1. 場所 Crasco 旅音
2. 日時 2024/12/27 11:00~12:00
3. 目的 金澤町家を宿泊施設として活用する実態を知る
4. 参加者 本山愛紗、山内花凜
5. 内容

私たちは、金沢で民泊事業を行っている、旅音(株式会社こみんぐる)様に伺い、金澤町家をどのようにして民泊として改修し、運営しているかについてヒアリングを行った。

その質問とその回答を以下に示す。

Q1 施設として運用していく方法や実現性は何か。

A1 オーナー次第である。ぼろぼろな物件は改修が必要なため、オーナーがどれだけ費用を出してくれるかによる。

Q2 民泊として町家を利用する際の注意すべき点はあるのか。

A2 宿として利用している建物なので、夜の騒がしさが問題となることが多く、近所の人との関係づくりが大切である。さらに、金澤町家は他の住宅よりも劣化している場合が多く、修繕や補修が必要になる。この工事にいかにお金をかけずに直すかが大切である。

Q3 町家を宿として提供する場合、ホテルと違ったサービスには何があるのか。

A3 現在、旅音は25棟を所有し、すべて一棟貸しを行っているため、バラエティ豊かである点がホテルとの大きな違いである。住宅を改修しているため、一つとして同じものはない。さらに、金沢に住んでいるように泊まることができるため、金沢に住

む疑似体験ができる。

Q4 最近の民泊の流れには何があるのか。

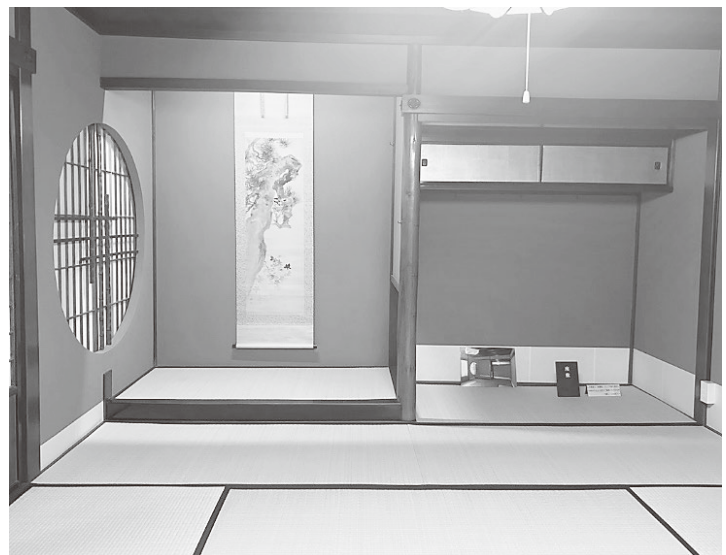
A4 結論として、金沢に民泊の数が増えている。

金沢で民泊するメリットとして、金沢独自の木虫籠（キムスコ）や水引から日本らしさを感じやすいということがある。さらに中心市街地から近い場所に泊まれるので金沢に住んでいる感覚を味わうことができる。一棟貸しであるのでペットと一緒に泊まれるという利点がある。これらの理由により金沢では民泊が増えてきている。

6. 成果

私たちは、町家を民泊として利用している事例を知ることができた。需要は高まっているため民泊をやる価値はあると感じた。民泊をするうえで、注意しなければいけないことはあるが、民泊だからできる様々なサービスを提供できる可能性を持っているのではないかと感じた。

〈金澤町家情報館〉



1. 場所 金沢町家情報館
2. 日時 2024/12/27 15:30～17:00
3. 目的 金澤町家がどのように保存され活用されているかを知る
4. 参加者 北山大智、本山愛紗、山内花凜
5. 内容

私たちは、金澤町家がどのように保存され、活用されているか、また、町家を保存することのメリットとデメリットについて知るため、金澤町家情報館に伺った。

その質問と回答を以下に示す。

Q1 金澤町家が地域にどのように役立っていますか。

A1 金沢には、戦災の被害を受けなかった町家が多く残っている。この町家は地域のシンボルとなり、地域の方の愛着と誇りを持つものになっている。さらに地域の歴史

を伝える機能も持っている。

Q2 町家を保存することは大変だと思うが、どのように保存しているのか。

A2 金澤町家は市が持っているわけではなく、民間人が持って保存している。市が補助金を出し、改修しながら使っている。さらに、オーナーとユーザーのお見合いを行う金澤町家情報バンクという支援や解体される前の買い取りを行いなるべく保存できるようにしている。町屋の補修改修を促す意識啓発も行っている。

Q3 町家を転用することのメリット、デメリットは何か。

A3 メリットは金沢らしい町並みを保存することにより、地元民に愛着をもってもらえるという点で。また、県外からの評価による観光客の増大や今あるものの活用によって環境にやさしく、無駄なものを減らすことができるという点もある。デメリットは現在の法律が適用されていないため、防火機能が弱いという点だ。また寒いので、今の生活に合わせた改修を行う必要があるという点がある。

Q4 金沢独自の町家の活用方法はあるか。

A4 町家を開放した観光客の休憩所や金澤町家情報館などの流通の支援に使用されている。

6. 成果

私たちは、金沢市としての金澤町家の保存方法について知ることができた。現状として金澤町家情報館では、改修にはお金がかかってくるため、私たちが提案したものを実現させるためには金沢町家情報館を可能な限り利用することが不可欠だと感じた。一方で、金澤町家だから生まれている地域への様々な良い影響がたくさんあり、それらを生かすことも重要だと感じた。

〈株式会社ガクトラボ〉



〈 <https://www4.city.kanazawa.lg.jp/material/images/group/1/topimg.jpg> 〉

〈 [https://gakutolab.co.jp/wp-](https://gakutolab.co.jp/wp-content/themes/gakutolab_theme_v0/images/common/gakuto-lab-logo.png)

[content/themes/gakutolab_theme_v0/images/common/gakuto-lab-logo.png](https://gakutolab.co.jp/wp-content/themes/gakutolab_theme_v0/images/common/gakuto-lab-logo.png) 〉

1. 場所 金沢学生のまち市民交流館
2. 日時 2024/11/27 17:45～
3. 目的 就活支援の実態を知る
4. 参加者 北山大智
5. 内容

Q1 学生が参加したくなるイベントの成功の秘訣はなにか。

A1 学生に行きたいと思わせ、興味をもってもらい、カジュアルな雰囲気にして気軽に参加してもらうこと。

Q2 町屋を活用した企業と学生が交流する拠点についてどう思うか。

A2 学生と交流できる拠点を使用する企業のメリットとして、若者のニーズを発見できるという点がある。さらに、石川に興味をもつ学生でないと来ない、地方に興味がある学生を呼び込む、仲良くなる関係性や人とのつながりが持てる場の提供をするなどのアドバイスをいただいた。

6. 成果

私たちは、就職活動の実態を知ることができた。カジュアルな雰囲気ですぐに人とのつながりができる就活支援を提供することで学生が利用しやすくなるのではないかと感じた。また、そのような就活支援は学生だけでなく企業にも学生とのつながりを持てて、その企業を知ってもらうことができるという利点があると感じた。

4. 活動の成果

＜活動結果のまとめ＞

私たちは、「人口の転出超過」、「働き手不足による産業活力の低下」、「優れた文化の継承と発展」、「空き家の増加」という石川県が抱える四つの課題を解決するため、「空家×民泊×就活支援」というテーマで活動を行った。最終的に、金沢市をモデルケースとして町家を就活支援や地域の発信拠点として利用することを提案することで、以上の四つの課題の解決を目指した。

具体的には、石川県の空き家、特に金澤町家を改修し、北陸3県の就職活動中の学生を支援する施設の設立を行う。

金澤町家をリノベーションし利用することは、減少しつつある金沢の街並みを守るという役割を担うことになる。空き家と就職支援をつなげることで、学生は石川県での就職活動を円滑に進めることができ、企業はカジュアルな雰囲気ですぐに説明会や座談会を開催できる。町屋を利用することで、地域の人は愛着と誇りを持つようになり、様々なコミュニティの形成を図り、地域のシンボルとなることを目指す。

上記のような提案をするにあたり、主にアンケートとヒアリングを行った。

アンケートは、大学生を対象に、空き家への印象と就職活動や就活支援の現状、居場所に

について知ることを目的に行った。私たちが主張したいストーリーの根拠となる情報を集計結果から選ぶことで、説得力のあるプレゼンテーションを作成することができた。

ヒアリングでは、旅音(株式会社こみんぐる)、金澤町家情報館、株式会社ガクトラボ の三社に伺った。インタビューでは町家の活用方法や民泊の運営方法について質問し、提案の実現性について検討を行った。

これらの活動により、町家での民泊事業と就活支援を組み合わせるために必要な情報を入手し、提案に説得力を持たせることができた。

○今後の課題

この1年間の取り組みで、石川県が抱えるさまざまな課題について知り、実際の企業に訪問し現状や課題、解決策を認識することができた。また、「どのように管理するか」や、「どのように利益を生み出していくか」などの実現する方法や、使い続ける方法、広告の方法など検討すべき事項が多く残っている。

また、今回の提案では金沢市の“金澤町家”を取り上げている。町家は金沢市だけでなく、日本全国に、その土地の特徴をよく示す文化財として存在しているため、その他の地域でも「空家×民泊×就活支援」の取組は可能である。汎用性のある、標準的なモデルを考えることも必要とされている。

＜貢献事項＞

本提案は、未来テーマである「石川でよかった！-幸せの街、石川-」に対して、若者の地元定住や地域の活性化を促し、石川県での就職や地元定着を促進するという点で貢献している。具体的には、「人口の転出超過」、「働き手不足による産業活力の低下」、「優れた文化の継承と発展」、「空き家の増加」という四つの課題を石川県が抱える問題として設定し、それらを解決する手段として、空き家を活用し、就活支援を行うコミュニティ施設を提案した。

＜本事業の成果＞

本プロジェクトは、県内で増加している空き家を活用した就活支援を行う施設の設立を立案した。また、成果報告会で発表し、石川未来会議に向けて、より説得力を持たせた提案をするための助言をいただいた。

本提案には至らぬ点もあり、そのまま採用されないかもしれないが、未来テーマである「石川でよかった！-幸せの街、石川-」の達成に少しでも貢献できることを心から願っている。

5. 謝辞

今回の活動を行うにあたり、株式会社こみんぐる 山田様、金澤町屋情報館 定司様、森田様、株式会社ガクトラボ 高山様にご協力いただきました。ありがとうございました。

6. 活動に対するコーディネーターからの評価

活動当初のテーマ設定の段階において、“空き家活用”と“学生の就活支援”という2つのキーワードが浮かび上がっていたものの、アウトプットとしてなにを目指すのか（ハードの施設の提案なのか、社会的運動の提唱なのか、ビジネスモデルなのか、あるいはもっと違うものなのか）がグループの中でまとまらず、しばらく活動が停滞していた時期があったような印象があったが、活動後半において、県内外の学生へのアンケート調査や株式会社こみんぐる、金澤町屋情報館、株式会社ガクトラボへのインタビュー調査を経て急速に提案が具体化し、石川県が抱える4つの課題の同時解決を図る「空き家を活用し、就活支援を行うコミュニティ施設」の提案にまでこぎつけたことは高く評価できる。（新 広昭）

今回の活動は、自分が学ぶ大学や高専以外の学生と協働しながら、1つのプロジェクトを進めるというプロセスでした。自分の意思で応募された学生の皆さんは、とてもよいきっかけを手にしたと思います。同質の集団での活動や仕事は、これから先、社会に出ると多く体験しますが、この様に多様性が高い集団での活動は貴重な機会だと思います。

一方、それだけに多様なメンバーの意見や主張が異なることも体験したと思います。またそれ以前に、大学や高専ごとの教育システムの違いから、休暇や空き時間が合わないという「技術的な問題」も生じて学生間の調整が大変だったことでしょう。しかし、社会に出ると自分の会社や組織の中だけで活動するわけではありません。顧客や取引先というやはり文化の違う相手との共同作業や取引が一般的です。だからこそ、今回の体験はよい学びになっていると思います。

初回のチームビルディングで培ったチームワークを生かして、調査やインタビューを進められたと思います。自分たちでアポイントを取って趣旨を説明し、そこから相手に意見を求めていくプロセスは、卒論などでも体験しますが、複数メンバーの思いや考えを調整しながら進めるのは大変だったと思います。

今回の提案は幸せな街石川を実現するには、人と人が交流する場を用意するというユニークな提案であったと思います。また、就活に関連する宿泊施設の問題と全く分野が違う空き家対策を結びつけたことは、「イノベーション」であると思います。従来のプラットフォームにはない特徴があります。着目点はよかったと思います。そこに必然性はないという批判はあると思いますが、社会課題の解決は人の気付かない必然性を見い出して、正当化していくことです。その点では不安はないと思います。

一方、その仕組みをどのようにして実現するのか、必要な資金や協力をどのように調達するのかなど、実現性の提案には説得力が不足していました。イノベーションは発明に加え普及や市場への影響を生み出すことが必要です。皆さんのアイデアを広く社会に広めていくためにも、賛同者を得るための実現性の説明があった方がよいと思いました。

素晴らしいプランも実現への道すじがあるとさらに魅力が増します。次回の取り組み（の機会があれば）では、ぜひ「優れたアイデア＋実現の手順」で勝負してみてください。暑い時期を経て、年明けの発表までのロングランご苦労様でした。（敷田 麻美）

若者が地域のつながりを活用して石川県民を笑顔に！

チーム名 Sorasora

指導教員(代表) 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授 敷田 麻実

参加学生 ・ 公立小松大学 国際文化交流学部国際文化交流学科 3 年 木下 栞里
・ 金沢工業大学 工学部電気電子工学科 2 年 浦澤 康太
・ 北陸大学 経済経営学部マネジメント学科 1 年 谷中 夢萌
・ 石川工業高等専門学校 建築学科 4 年 宇野 蒼唯
・ 石川工業高等専門学校 建築学科 4 年 山下 莉璃

チーム名紹介

ひとり一人がこのプロジェクトに意欲的に参加し、大切にできるチーム名にしようという思いから、メンバーの名前の頭文字を組み合わせで何か作れないか？との発想で書き出したところ、“K・U・T・Y・U”という組み合わせができた。ローマ字読みで“くうちゅう”という単語が生まれ、そこから、空や宇宙のように無限の可能性を持ち、自由な発想で新しいチャレンジに挑み続けたいという思いから、最終形として Sorasora（そらそら）と名付けた。



1. 活動の成果要約

本チームでは、「石川でよかった！幸せの街、石川」という未来テーマに対し、「若者主体で行う今ある石川の魅力の活用」というアプローチで活動を行った。「伝統工芸の後継者不足」と「若者の県外流出率の増大」という問題に着目し、この問題解決と同時に SDGs の開発目標のひとつである「住み続けられるまちづくりを」も達成できるような案を創出するため、本活動に取り組んだ。石川県がもつ伝統産業や伝統行事などの“石川県ならではの産業と人とのつながり”という強みを若者が主体的に活用できる方法を模索した。最終的な成果として、自発的に若者・地域・企業のつながりを生む“プラットフォーム”の提案を行った。若者にとって身近であるインターネットを活用し、若者が県内の情報を得やすくし、企業、自治体などには PR する場を提供するというものである。若者・地域・企業の 3 者が関係を構築・継続できる仕組みを考えた。

2. 活動の目的

未来テーマに含まれる「幸せ」の定義をメンバーで共有した結果、「安心・安全・笑顔」というキーワードが重要であると考えた。問題意識とその定義に伴い、「次世代を担う若者が、地元産業や地域のつながりを活用して石川県内を活気づけて県民が安心して笑顔になれる街を目指す」を活動テーマとして掲げた。このテーマに沿って新しいアイデアを創り、石川県を「幸せの街」にすることが本活動の主な目的である。幸せの街を目指すためには、人との交流から生まれるソフトな部分が必要であると考えた。他県に誇れる文化・産業が豊富である石川県の安心・安全を守るために、学校や町内会などの今あるつながりを活用し、世代を超えた新しいコミュニケーションの場をつくる。プラットフォームが石川県の未来を担う若者が活躍できる機会を増やし、県内を盛り上げることで、後継者不足や過疎地域の解消を実現することが本活動を実施するにあたっての活動目的である。

3. 活動の内容・成果

<活動スケジュール>

5～6 月	5/25 キックオフ講義・顔合わせ 6/12 コアタイムミーティング 1 回目 ・個人案共有 ・活動方針の話し合いテーマ設定
7 月	テーマを熟考するためにアンケート実施 中間報告会準備 7/27 中間報告会
8 月～9 月	夏季休暇
9 月	活動ゴール再検討 ⇒イベント実施を考える
10 月	イベント内容を考える ⇒プラットフォームの提案に方向転換
11 月	提案内容話し合い 企業ピックアップ・インタビュー準備
12 月	インタビュー実施 ① 12/11 金沢市市役所 市民協働課、地域力再生課 ② 12/18 株式会社 テレビ金沢 ③ 12/27 株式会社 ガクトラボ
1 月	成果報告会準備 1/18 成果報告会
2 月	成果報告会からの内容更新 2/15 石川未来会議

<6/12 コアタイムミーティング1回目>

目的：チームとしての団結力を高める。

個人案の共有を行い、全員の案に共通するキーワードを見つける。

内容：講義を通して、グループとチームの違いを学ぶ。

個人で考えた幸せの街を実現するための具体課題とその理由を共有した。

えんたくん(円形の再生紙)を用い、メモを取りながら聞き、キーワードを選出する。

各々の個人案を以下に記す。

名前	具体課題のタイトル	具体課題が必要な理由
木下 栞里	石川県に関わり続ける人を増やす	石川県の住みやすさ、生活満足度のデータを調べると、他県に負けずランキングが高い市町村があった一方で、震災があった市町村や消滅可能性自治体を持続可能なまちにしていける必要がある。そのためには、他県に住む人も第二の故郷のように思えるまちにしたい。そのためには興味を持ち続けられる関係を築く必要があると考える。リピートして訪れてくれる関係人口をイベントやボランティアなどを通じて増やし、今石川に住む人とこれから住む人、石川に関係する人がお互いによりよいまちにしていけるようにしたい。震災復興や後継者不足は住民だけでなく他県の人々の力もカギとなるため一度だけでなく、複数訪れたくなるまちづくりが必要だと考える。
浦澤 康太	能登復興、石川の伝統工芸復活プロジェクト	元日の能登半島地震を受けて未だに復興が進まず、輪島塗などの伝統工芸が失いつつある。若者の伝統工芸継承の問題や能登半島の1日も早い復興の手伝いをしたい。
谷中 夢萌	石川県内の絶滅危惧種の数が増えていることについて	私達ができる範囲の対策をして、動物の命を守っていききたいからだ。絶滅危惧種が増える原因に森林伐採と、水路のコンクリート化がある。森林伐採をすることによって、林や森で生活する動物の住処をなくすことになる。さらに、水路のコンクリート化が進むことによって海や河川で暮らす生物の住処をなくすことになる。水路のコンクリート化の対策は、私達には難しいかもしれないけど、森林伐採の対策は私達にできることがたくさんある。この対策を皆で頑張れば、少しでも多くの命を守ることができる。更に、SDGsの15番の目標のターゲットには、生物多様性の保全があるからでもある。
宇野 蒼唯	町内会レベルMAX	私が考える『石川でよかった！ー幸せの街、石川ー』は、進学や就職で県外に出る学生が子育てをするときに帰ってくることができる街のことである。石川県の魅力の一つと

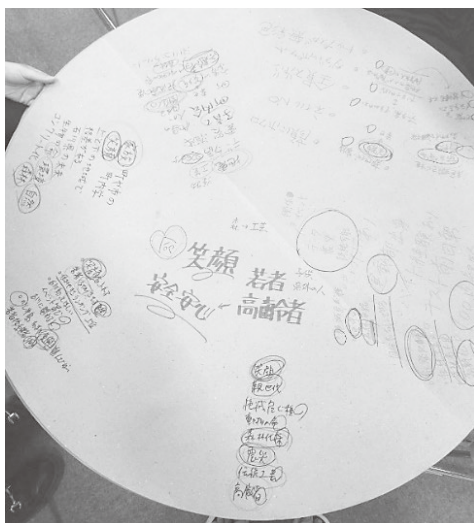
		して充実した町内会がある。令和3年4月1日の総務省の自治会数調査によると、石川県には4,054個もの町内会があることが分かっている。これらの町内会を利用し、災害等の緊急時だけでなく、普段から関わりを広げ、つながりを強化することで子育てしやすい街にする。また、町内会での活動は、学校ではできない自然体験や年齢を超えた縦のつながりによる共助の機会になるとともに、町民同士の会話も増えることで安心できるコミュニティを形成する。
山下 莉璃	一家族、一家族が笑顔の街石川	私は環境に配慮して親世代や高齢者がより楽しめる場を増やし笑顔溢れる街にすることを提案する。“幸せ”という単語から連想される言葉は“笑顔”である。家族が幸せなら笑顔になれると思い家族を軸に考えた。現在、石川県では若い世代の県外流出率の高さも課題になっているが、若者を留まらせることは難しいのではないかと考えた。そこで石川県企画振興部企画課の目標とする将来像に法り、ターゲットを現在石川県内に在住している親世代や高齢者にした。老後の楽しみや生きがいを見つける空間を設置する。子が帰ってくると親は嬉しくまた笑顔が増える。そんな一家族、一家族の笑顔が広がる“幸せの街、石川”になってほしい。

選出されたキーワード

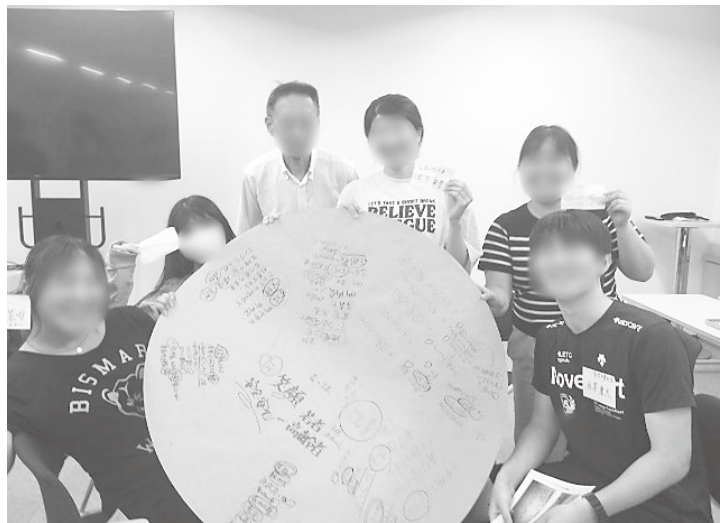
幸せとは・・・安心・安全 笑顔

ターゲット・・・若者(県内の人)・高齢者

幸せの街 ⇒ どんな世代も笑顔で安心・安全に暮らせる街



えんたくんの様子



コアタイムミーティング終了時のチーム集合写真

<7/1～ アンケートの実施>

目的：自分たちのやりたいことと、県民から求められていること

私たちの考える『しあわせ』と、石川県に住んでいる人が考える『しあわせ』
にずれが生じていないかを確認する

内容：Google form を用いてアンケートを行う

アンケートの詳細は、以下の通りである。

対 象：石川県民（主に学生・回答者44人）

質問内容：回答者の属性（年齢・学年・出身地）

石川県の好きなところ・嫌いなところ

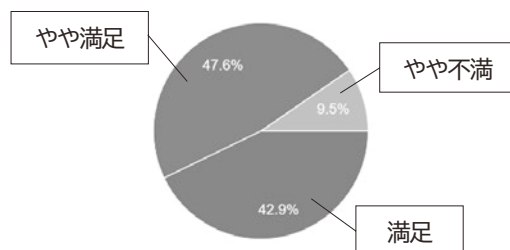
石川県における生活満足度

将来的に石川県に残るか（その理由）

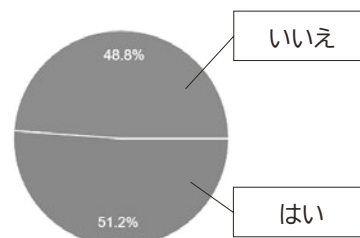
“しあわせ”と聞いて思い浮かべるキーワード など

アンケート結果

石川県における生活満足度を教えてください
42 件の回答



将来石川県に住み続けたいと思いますか
43 件の回答



石川県の好きなところ・・・都会すぎず田舎すぎないバランスの良さ、豊かな自然 など
石川県の嫌いなところ・・・雨が多い、遊ぶ所が少ない、車を持っていないと不便 など

アンケート結果からわかったこと

- ・石川県に住み続けたい人とそうでない人の割合は半分半分だった。
→今ある長所を生かして幸せの街を目指す。
- ・石川県は雨や雪の面で不便である理由で、石川県を離れる人が多い。
→自然と幸せのつながりを考える必要がある。

<7/27 中間報告会>

目的：テーマ決定までの流れについてまとめ、先生方からアドバイスをいただく。

内容：活動テーマの決定までの流れをパワーポイントにまとめて、発表する。

活動テーマ	
誰が Who	10代・20代の次世代を担う若者が
何を What	地元ブランドや地域のつながりを活用して
どのように How	石川県内を活気づけて
どうしたいか GOAL	県民が安心して笑顔になれる街を目指す

発表スライドの抜粋(決定した活動テーマ)

先生方からのコメント・アドバイス

- ・アンケートはもっと様々な年代や、属性（例えば、石川県出身の人・そうでない人）の方から、多くの回答を得る必要があった。
- ・アンケート依頼した総数を明確に把握していなかった為、回収率を示す事ができなかった。
- ・質問内容をより明確化して、アンケートに協力してもらいやすくする、自分たちの聞きたいことを絞るなどの工夫が必要。

この時点では、今ある石川県の長所を生かして、幸せの街を目指す方向で確定した。今後の活動については、アンケートの継続実施や、現在あるイベント・企画の調査を検討していた。

<9月以降の取り組み>

目的：アイデアを形にし、活動テーマにそって“幸せの街・石川”を目指す。

内容：「学生×地域×企業のプラットフォーム」を提案するための準備を行う。

具体的なゴールの決定

石川県の地元ブランドと地域のつながりを活用した、私たち学生が主体のイベント開催に向け、学生と地域が協力しているプロジェクトを調べていたところ、金沢市が行っている学生×地域連携プラットフォームを発見する。このプラットフォームに“企業”も加わることで、活動の輪が広がるのではないかと考えた。また、イベントは一度きりで終わってしまうので、活動が継続できる仕組みをプラットフォームに取り入れることにする。

<12 月 インタビュー実施記録>

目的：プラットフォームの内容を考える上で、学生視点の意見だけではなく地域や企業の私たちが知らない立場の意見を知る。

内容：学生とかかわっている地域・企業の方々にインタビューを行う。

① 12/11 金沢市役所 （対面） 市民協働課、地域力再生課各 2 名ずつ

金沢市役所へのインタビューでは学生、地域、企業の観点で金沢市が行っている活動や、地域の立場として学生・企業との関わりについて難しい点などを伺った。「信頼関係の構築が難しい」や「プラットフォームの継続が難しい」との意見を聞き、継続していくための方法を考えることが大切だと気づくことができた。具体的には、管理者や運営方法、更新年度、個人情報などのセキュリティや資金などについても検討する必要があるとわかった。

以下、金沢市が実際に行っている活動である。

・学生×地域連帯プラットフォーム

地域での活動意識が高い学生団体が地域団体とマッチングして地域に若手の活力を生み出す。

・協働まちづくりチャレンジ事業

NPO の市民団体や町会等の地域、学生団体からアイデアと工夫にあふれた町づくり企画を提案し、市民と行政が協働してまちづくりに取り組む。

・まちづくり HUB Project in 金沢

地域ごとに分かれて、商店街と学生団体が協力し商店街に活気を出したり、社会福祉協議会や町会連合会と地域を盛り上げるためにアイデアを出し合ったりする。



実際のインタビューの様子

② 12/18 株式会社テレビ金沢 （対面）

テレビ金沢へのインタビューでは、地域と学生との取材、また石川県の課題について話を伺った。その中で、石川県の魅力は沢山あるのに発信力が足りない点が課題であると伺った。地域の伝統的な祭りの後継者不足の解消のためにも、魅力の伝承を行う必要があるといえる。

それらを私たちの提案に取り入れると、プラットフォームによって、県民の方々に自分の住んでいる地域はもちろん、離れた地域にも行ってみたいと思えるきっかけを与えることで、魅力を広く伝えていくことができると考える。



株式会社テレビ金沢のロゴ・本社

③ 12/27 株式会社ガクトラボ （対面）

ガクトラボへのインタビューは、「学生・若者」と「地域・企業」を繋ぎ、未来をつくるプロジェクトの創出の支援を行う企業として、私たちの提案内容を実際に聞いてもらって、アドバイスをいただいた。金銭面で協力してほしいことがあるときは、企業と相談したり自分たちでお金を出し合ったりしていることを教えていただいた。

このことから、私たちがしようとしていることは全て私たちでできる事ではないため、活動していく際は協力してもらうことも大切だとわかった。



株式会社ガクトラボのロゴ

3つのインタビューを通して参考になった点

- ① 金沢市役所・・・プラットフォームを継続する難しさ
- ② 株式会社テレビ金沢・・・発信力の強化、魅力の伝承の大切さ
- ③ 株式会社ガクトラボ・・・プラットフォームを運営する為にはビジネスとして確立する必要がある

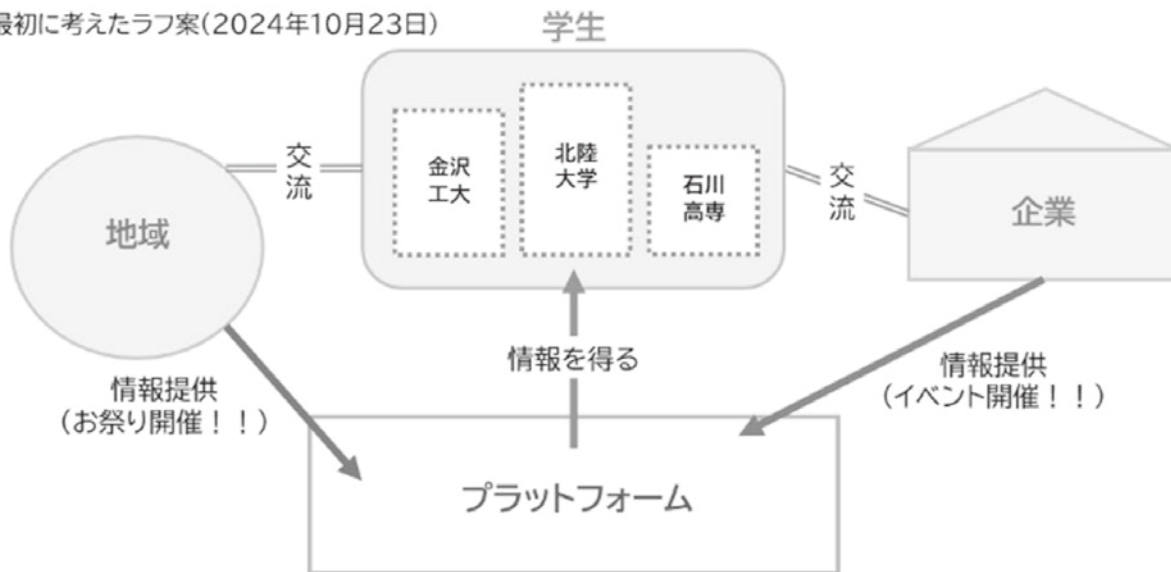
そして、地域・企業ともに、学生と何かをすることに積極的な姿勢を持っていた。自分たちが“学生”であるという強みを最大限に活用することが必要だとの気づきがあった。

4. 活動の成果

＜提案内容＞ 「学生×地域×企業のプラットフォーム」

私たちは「学生×地域×企業のプラットフォーム」の提案を行った。具体的な内容は、地域と企業から情報提供をしてもらい、プラットフォームを経由して学生が情報を得て、イベントなどに参加するような流れになる。また、それとは逆に、学生がイベントを企画し情報を発信することで、その企画が気になる企業や地域がそのサポートを行うことも可能である。その他、3者がそれぞれの交流を深められるようにメッセージなどで連絡もとれるように考えている。

最初に考えたラフ案(2024年10月23日)



プラットフォームでできること



情報収集



情報交換



DM,リプライ機能



PR



人材募集



コミュニティ形成

プラットフォームの特徴

① カテゴリー選択

自分の専門分野だけでなくその他の専門や観光、伝統工芸体験などが選択できる。

② 地域選択

市町村ごとに分けて、自分の住んでいる所はもちろん、行ったことのない地域を知る機会も得られる。

能登、加賀だけでなくその中でさらに奥能登や中能登、南加賀などに分類されている。

利用方法

- ・オンラインサイトで学生が個人として登録し、アカウントを作成する。(団体登録も可)
- ・学生の登録料は無料。

運営方法

- ・初期メンバーが学生団体を立ち上げて、学生主体で運営する。
- ・維持費やインターネットのシステムは参加していただく企業に資金の協力を依頼する。
- ・運営メンバーは半年から一年運営してもらい、1年ごとに更新し募集を行う。
- ・運営する学生は有給インターン形式とする。

PR 方法

- ・各学校にチラシやパンフレットを配布する。
- ・参加企業、各市町村に宣伝をしてもらう。
- ・SNS を上手く利用して、県外の人も活動の様子を見られるようにする。

活用方法の具体例

学生から：地域イベント出展の協力依頼、大学行事の宣伝、企業や地域へのヒヤリング依頼 など。

地域から：祭りの担い手やボランティア募集、地域イベントの宣伝、
伝統産業に関わることでできるイベント開催、地域課題を募る など。

企業から：仕事体験の場の提供、学生へのアンケート、商品に触れてもらうイベント開催・
宣伝、商品PR など。

メリット

学生：経験的な学びの提供、学外の居場所作り、地元企業と出会える など。

地域：後継者不足や少子高齢化の解消、学生と協力し活気あるまちづくりの実現 など。

企業：学生のトレンド・ニーズを知ることができる、自分たちの仕事について知ってもらう
きっかけになる、地域との交流による信頼度向上 など。

→三者が協力し合うことで、イベントの継続率が高くなる。

懸念点

- ・セキュリティや個人情報の管理。
- ・運営メンバーと協賛をどう集めるか。
- ・どれくらいの学生が興味を示してくれるのか など →学生へのアンケートが必要。

<活動成果>

未来テーマである「幸せの街、石川」に対して、私たちは若者と地域や企業との交流を増やすことで、輪が広がり、多世代の交流が生まれ、街が活気づき笑顔あふれる幸せな石川県になるのではないかと考えた。インタビューからは、若者とつながる機会が増えるのはうれしいという声を何度も伺ったため、きっかけづくりになるようなプラットフォームの提案を行った。学生へのアンケートは行えなかったものの、3つのインタビューを対面で行えたことで、非常に貴重な意見を得ることができた。このプラットフォームの実現は「伝統工芸の後継者不足」と「若者の県外流出率の増大」の解消につながり、「住み続けられるまちづくりを」可能にすると考える。

5. 謝辞

今回の活動を行うにあたり、金沢市市民協働課・地域力再生課様、株式会社テレビ金沢様、株式会社ガクトラボ様にご協力いただきました。ありがとうございました。

6. 活動に対するコーディネーターからの評価

今回の活動は、自分が学ぶ大学や高専以外の学生と協働しながら、1つのプロジェクトを進めるというプロセスでした。自分の意思で応募された学生の皆さんは、とてもよいきっかけを手にしたと思います。同質の集団での活動や仕事は、これから先、社会に出ると多く体験しますが、この様に多様性が高い集団での活動は貴重な機会だと思います。

一方、それだけに多様なメンバーの意見や主張が異なることも体験したと思います。またそれ以前に、大学や高専ごとの教育システムの違いから、休暇や空き時間が合わないという「技術的な問題」も生じて学生間の調整が大変だったことでしょう。しかし、社会に出ると自分の会社や組織の中だけで活動するわけではありません。顧客や取引先というやはり文化の違う相手との共同作業や取引が一般的です。だからこそ、今回の体験はよい学びになっていると思います。

初回のチームビルディングで培ったチームワークを生かして、調査やインタビューを進められたと思います。その中で、利害関係が少なく、自由に動けるという学生の特性や立場に着目したことは素晴らしいことです。今回の提案は、学生が大人同士、組織同士の結びつけ役をする従来のプラットフォームにはない特徴があります。着目点はよかったと思います。

一方で、そのプラットフォームをどのように生み出すのか、今ある類似の仕組みやプラットフォームとはどこが違うのか、維持する仕組みや資金調達は、と聞かれると回答に困るのではないのでしょうか。素晴らしいプランも実現への道すじがあるとさらに魅力が増します。次回の

取り組みでは、ぜひ「優れたアイデア＋実現の手順」で勝負してみてください。暑い時期を経て、年明けの発表までのロングランご苦労様でした。

最後になりますが、各先生や事務局の人たちからインタビュー先の紹介やアドバイスを含めた支援があったと思います。謝辞も書いて頂いているので、特別に感謝する必要はありませんが、紹介された相手とどのように接触したのか、何をお願いしたのか、どのような便宜を受けたのかは、紹介してもらった相手に報告してもよいのではないのでしょうか。私たちは学生だから手伝ってもらえて当たり前は、学生時代でしか通じません。大人に成長するには、自分立ちも責任を持って動く存在であることを前提に行動してはどうでしょう。（敷田 麻美）

5月のキックオフミーティング（チームビルディング）から7月の中間報告会を経て12月のインタビュー調査前までの時期はなかなかメンバーの目的意識のベクトルがそろわず、苦労していた様子うかがえました。しかしながら、1月の成果報告会ではしっかりとまとまった提案になっていたことは高く評価します。これは、インタビュー調査で行政機関の方や企業の方の生のお話をうかがうことで急速にアイデアが収束してきたのではないかと推察します。

このように、テーマと目的を設定し、情報を収集している段階では、先生方のアドバイスや事務局の方のサポートがありながらもなかなか先が見えてこず、ほんとうにゴールまでたどり着けるのかと不安に思ったことと思います。しかし、このメンバー内での苦闘のプロセスは決して無駄ではなく、ディスカッションを繰り返す中で徐々にメンバーのベクトルがそろい、自分たちの目的に向かってインタビュー調査で何を聞けばよいかがわかってきたと思います。そして、実際に社会人の方の経験を聞くことでその方の経験が間接的ではありますが皆さんの経験として共有され、それまでモヤモヤとよくわからなかったことが「あ、そういうことなのか！」と得心を得たのではないのでしょうか。

社会に出ると「組織で仕事をする」ということがよく言われますが、皆さんはこのプロジェクトの遂行により組織の仕事という貴重な経験、今風でいうガクチカを得ることができたのではないのでしょうか。

最後に、今回のプロジェクトではプラットフォームを提案するところまででしたが、このプラットフォームを持続可能なものにするためのビジネス化について、問題意識を持ち続けていただければと思います。（新 広昭）

編集発行： **UC↑** 公益社団法人 **大学コンソーシアム石川**

〒920-0962 金沢市広坂2丁目1番1号
(石川県政記念しいのき迎賓館 3階)

Tel : 076-223-1633 Fax : 076-223-1644

E-mail : info@ucon-i.jp

URL <https://www.ucon-i.jp>

発行年月：2025年2月

本成果報告書は、公益社団法人大学コンソーシアム石川が実施した
令和6年度石川未来プロジェクト事業の取組みを取りまとめたものです